

## レオポルド触診法演習用妊婦モデル 【作製方法と使い方】

### 1. 作製方法




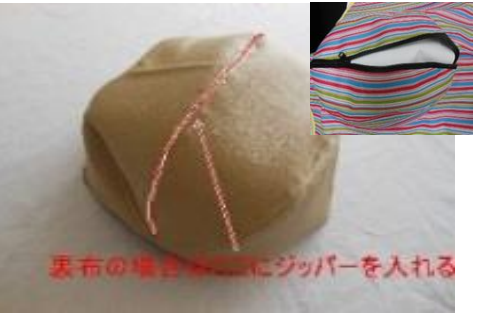


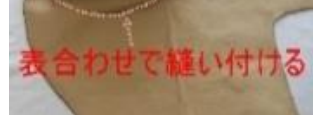
#### <材料>

- ・ 表布: 150×250cm --- 伸縮性のある合皮
- ・ 裏布: 150×250cm --- 伸縮性のない厚手の布。モデル全体を洗うことができないので、濡れ布巾などで汚れをとることができる素材が良い。
- ・ マジックテープ: 60cm
- ・ ジッパー: 約 40cm
- ・ バイアステープ: 約 250cm
- ・ 赤ちゃん人形: 1体
- ・ 綿: 適量

材料費: 約 2,000 ドミニカペソ ≒ 5800 円

#### <作製過程>

縫い代はすべて 1cm

<p>1. 各パーツを型紙に沿って裁断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表基礎部分 左右各 1 枚</li> <li>2) 裏基礎部分 左右各 1 枚</li> <li>3) 表腹部 左右各 2 枚</li> <li>4) 裏腹部 左右各 2 枚</li> <li>5) マジックテープ (3cm 幅) 15cm :3 本 (背中用) 5cm :3 本 (首用)</li> <li>6) バイアステープ 約 250cm</li> </ol>	 <p>裏布も同様</p>
<p>2. 表基礎部分の左右を縫い合わせる 左右を表合わせにして縫い、表に返して抑え縫いをする。</p>	 <p>裏布も同様</p>
<p>3. 裏基礎部分の左右を縫い合わせる 左右を表合わせにして縫い、表に返して抑え縫いをする。</p>	 <p>裏布も同様</p>
<p>4. 表腹部のパーツ 4 枚を縫い合わせる</p>	 <p>裏布の横縫い部分にジッパーを入れる</p>
<p>5. 裏腹部のパーツ 4 枚を縫い合わせる 左側 2 枚、右側 2 枚を縫い合わせたあと、それぞれをジッパーを挟んで縫い合わせる。</p>	 <p>裏布の横縫い部分にジッパーを入れる</p>
<p>6. 表基礎部分と表腹部を縫い合わせる</p>	 <p>裏布も同様</p>
<p>7. 裏基礎部分と腹部を縫い合わせる</p>	 <p>表合わせて縫い付ける</p>

<p>8. 表布の首・背中の部分にマジックテープを縫い付ける</p>	
<p>9. 裏布の首・背中の部分にマジックテープを縫い付ける。</p>	
<p>10. 表・裏それぞれの基礎部分・腹部の縫い目をそろえて、内側から表と裏を縫い付ける</p>	
<p>11. 表・裏をそろえて基礎部分の周りにバイアステープを縫い付ける</p>	
<p>12. 赤ちゃん人形の頬と膝の部分を接着剤で付ける。背中部分が柔らかすぎる場合は、少し硬い素材の布などを縫い付ける。</p>	
<p>13. ジッパー部分より赤ちゃん人形入れる。左右の余った空間は綿（わた）をつめる。</p>	

## 2. 使い方と留意点

- ・ 参加者に妊婦モデルを装着し、診察台または大きめの机（倒れないよう要注意）にヨガマットなどを敷き、仰臥位にて横になってもらう。
- ・ レオポルド触診法の演習の際には、中に入れる赤ちゃん人形の大きさが何週相当のものなのか、また週数による触診時の注意点を説明する。
- ・ レオポルド第三段・第四段（骨盤への児頭の侵入度合を確認）の演習の際には、この妊婦モデルには骨盤がないため詳細部分の演習は出来ない事・実際の妊婦触診時の判断のポイントを説明する。
- ・ 裏側がジッパーになっている為、赤ちゃん人形を取り出して胎位を変えることもできる。
- ・ 子宮底長測定の際には、恥骨結合の位置をどこに設定するのかをあらかじめ決めておく必要がある。（妊婦モデルの下部縫い合わせ部分にするか、妊婦モデル装着者本人の恥骨結合にするのか）
- ・ 演習は全員が経験できる事が望ましいため、1グループ 8人～10人以下である事が望ましい。
- ・ 赤ちゃん人形を取り出して、8～10kg相当の砂などを入れると、両親学級での妊婦体験ジャケット（お父さんが着用し妊婦の大変さを体験する）としても活用できる。

### [演習風景]



・ 子宮底長測定



・ レオポルド触診法



妊婦モデル作成：イノア山下佐紀子（業務調整/研修計画）

アイディア：渡邊純子